

| | |
|-------|-------------------|
| 助成事業名 | 地方創生推進交付金（道整備交付金） |
|-------|-------------------|

| | | | |
|--------|-------|----|-----|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-1 |
| 実施事業主体 | 県・市町村 | | |

| | | | | | |
|-------|---------------------|----|-------------|----|------|
| 県主管課 | 政策企画課 | 室等 | 土地利用 政策班 | 内線 | 2393 |
| 関係省庁名 | 内閣府・国土交通省・農林水産省・林野庁 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|----------------------------|--|---|-----------------------------|-----------------------------|
| 事業の目的・概要 | 地域における経済基盤の強化又は生活環境の整備のため、特に地域における交通の円滑化及び産業の振興を図ることを目的として、地域において関連性を有する市町村道、広域農道又は林道の効率的な整備を支援する。 | | 【支援措置の内容】 市町村道、農道及び林道の整備に必要な経費として、施設間、年度間で融通可能な交付金を交付（交付期間は概ね5年以内） 【支援措置の対象となる施設】 地域の道路ネットワークを構成する市町村道、広域農道、林道が対象 ・市町村道：道路法（昭和27年法律第180号）第8条第1項に規定する市町村道（過疎地域自立促進特別措置法等の規定による県の権限代行事業により整備されるものを含む。） ・広域農道：農道整備事業実施要綱（昭和52年4月16日付け52構改D第239号農林水産事務次官依命通知）、又は「流通・通作条件整備計画について」（令和2年3月31日付け元農振2665号）等に基づくもの ・林道：県又は市町村が整備する森林法（昭和26年法律第249号）第5条第1項の地域森林計画に定める林道 【適用要件】 各地方公共団体の総合戦略に位置づけられた事業であって、市町村道・広域農道・林道のうち、2種類以上の事業を総合的に行うことが必要 | 留意事項 ○ 地域再生計画は、必ず整備事業の実施主体となる者が作成（県が実施する事業と市町村が実施する事業を組み合わせると2以上の事業とする場合は、県と市町村が共同作成者となる。） ○ 新規計画を策定する場合には、5月の要望額調査までに県担当課に対し、新規計画策定予定である旨連絡することが望ましい。 【県担当課】 ・市町村道→道路整備課 ・広域農道→耕地課 ・林道→森林課 ・全体取りまとめ→政策企画課 | | |
| | 根拠法令等 | 地域再生法 地方創生道整備推進交付金交付要綱等 | | | | |
| 申請時期・手続き等 | 【前年度】 5月 予算要望額調査（新規計画・継続計画） 7月 申請予定計画の事前ヒアリング（新規計画・変更計画） 10月 事前相談（新規計画・継続計画） 1月 ・地域再生計画認定申請（新規計画・変更計画） ・予算最終要望額調査（新規計画・継続計画） 3月 地域再生計画認定（新規計画・変更計画） 【実施年度】 ○内示 ○交付申請 ○交付決定 ※関係省により、各手続きの内容・時期は異なる。 | 補助対象事業・補助基準等 | 事例等 | 令和3年度実施市町村数（8市） 銚子市ほか7団体 | 令和4年度実施市町村数（8市） 銚子市ほか7団体 | 令和5年度実施市町村数（8市） 銚子市ほか7団体 |
| | 補助率・額 | | | 地域再生計画に記載されている施設ごとの総事業費に対し、施設ごとに定められた交付金を充当する割合を乗じたものを限度額とする。 | 対象市町村等数 54 | 実施市町村等数（5年度） 8 |

| | |
|-------|-------------------|
| 助成事業名 | 地方創生推進交付金（港整備交付金） |
|-------|-------------------|

| | | | |
|--------|--------------|----|-----|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-2 |
| 実施事業主体 | 県・市町村・一部事務組合 | | |

| | | | | | |
|-------|---------------|----|---------|----|------|
| 県主管課 | 政策企画課 | 室等 | 土地利用政策班 | 内線 | 2393 |
| 関係省庁名 | 内閣府・国土交通省・水産庁 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--------------|--|---------------------|---|---|---------|----|--------------|---|-----|
| 事業概要 | <p>地域における経済基盤の強化又は生活環境の整備のため、特に地域における海上輸送及び水産業を通じて地域経済の振興を図ることを目的として、地域の交流促進や防災安全といった地域レベルで共通する課題に適切に対応するために必要となる地方港湾の港湾施設又は第一種漁港若しくは第二種漁港の漁港施設の効率的な整備を支援する。</p> | | <p>【支援措置の内容】 地方港湾の港湾施設又は第一種漁港若しくは第二種漁港の漁港施設の整備に必要な経費として、施設間、年度間で融通可能な交付金を交付（交付期間は概ね5年以内）</p> <p>【支援措置の対象となる施設】 地域の利用が主体となっている地方港湾、第一種漁港又は第二種漁港における以下の港湾施設及び漁港施設が対象</p> <p>【適用要件】 各地方公共団体の総合戦略に位置づけられた事業であって、港湾施設及び漁港施設の事業を総合的に行うことが必要</p> | <p>○ 地域再生計画は、必ず整備事業の実施主体となる者が作成（県が実施する事業と市町村が実施する事業を組み合わせるとして2以上の事業とする場合は、県と市町村が共同作成者となる。）</p> <p>○ 新規計画を策定する場合には、実施前年度に行われる6月の要望額調査までに県担当課に対し、新規計画策定予定である旨連絡することが望ましい。</p> <p>【県担当課】 ・港湾施設→港湾課 ・漁港施設→漁港課 ・全体取りまとめ→政策企画課</p> | 留意事項 | | | | |
| | <p>地域再生法 地方創生港整備推進交付金交付要綱等</p> | <p>補助対象事業・補助基準等</p> | | | | | | | |
| 申請時期・手続き等 | <p>【前年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月 予算要望額調査（新規計画・継続計画） 7月 申請予定計画の事前ヒアリング（新規計画・変更計画） 10月 事前相談（新規計画・継続計画） 1月 ・地域再生計画認定申請（新規計画・変更計画） ・予算最終要望額調査（新規計画・継続計画） 3月 地域再生計画認定（新規計画・変更計画） <p>【実施年度】 ○内示 ○交付申請 ○交付決定 ※関係省により、各手続きの内容・時期は異なる。</p> | | <p>補助率・額</p> <p>地域再生計画に記載されている施設ごとの総事業費に対し、施設ごとに定められた交付金を充当する割合を乗じたものを限度額とする。</p> | <p>令和3年度実施市町村 実施なし</p> <p>令和4年度実施市町村 実施なし</p> <p>令和5年度実施市町村 実施なし</p> <table border="1"> <tr> <td>対象市町村等数</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>実施市町村等数（5年度）</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>・対象市町村等は市町村及び一部事務組合であり（地方創生港整備推進交付金交付要綱第2の2及び別表1参照）、一部事務組合の範囲に明文上の制限はないが、事業の性質上、港湾及び漁港に関連する事務を所掌する一部事務組合が対象となると考えられる。</p> | 対象市町村等数 | 95 | 実施市町村等数（5年度） | — | 事例等 |
| | 対象市町村等数 | 95 | | | | | | | |
| 実施市町村等数（5年度） | — | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| | |
|-------|------------------------|
| 助成事業名 | 地方創生推進交付金（汚水処理施設整備交付金） |
|-------|------------------------|

| | | | |
|--------|------------|----|-----|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-3 |
| 実施事業主体 | 市町村・一部事務組合 | | |

| | | | | | |
|-------|-------------------------|----|-------------|----|------|
| 県主管課 | 政策企画課 | 室等 | 土地利用 政策班 | 内線 | 2393 |
| 関係省庁名 | 内閣府・国土交通省・農林水産省・水産庁・環境省 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------|---|---------------------------------|---|---|---------|----|--------------|---|
| 事業の目的・概要 | 地域における生活環境の整備のため、特に汚水処理施設の普及促進を図ることを目的として、地域の自主性・裁量性による公共下水道、集落排水施設（農業集落排水施設及び漁業集落排水施設に限る。）又は浄化槽の効率的な整備を支援する。 | | 【支援措置の内容】 公共下水道、集落排水施設（農業集落排水施設及び漁業集落排水施設に限る。）又は浄化槽の整備に必要な経費として、施設間、年度間で融通可能な交付金を交付（交付期間は概ね5年以内） 【支援措置の対象となる施設】 公共下水道、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、浄化槽（市町村設置型及び個人設置型）が対象。 ・公共下水道：下水道法（昭和33年法律第79号）第2条第3号に定める公共下水道 ・農業集落排水施設：農山漁村地域整備交付金実施要領（平成22年4月1日付け21生畜第2045号・21農振第2454号・21林整計第336号・21水港第2724号）の別紙11-1及び11-2に定める実施要件を満たす農業集落排水施設 ・漁業集落排水施設：農山漁村地域整備交付金実施要領（平成22年4月1日付け21生畜第2045号・21農振第2454号・21林整計第336号・21水港第2724号）の別紙21に定める実施要件を満たす漁業集落排水施設 ・浄化槽：循環型社会形成推進交付金交付要綱（平成17年4月11日付け環廃対発第050411001号環境事務次官通知）及び循環型社会形成推進交付金交付取扱要領（平成17年4月11日付け環廃対発第050411002号環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長通知）に基づくもの 【適用要件】 各地方公共団体の総合戦略に位置づけられた事業であって、支援措置の対象となる施設（公共下水道・農業集落排水・漁業集落排水・浄化槽）のうち、2種類以上の事業を総合的に行うことが必要 | 留意事項 ○ 地域再生計画は、整備事業の実施主体となる市町村及び一部事務組合が作成 ○ 新規計画を策定する場合には、実施前年度に行われる6月の要望額調査までに県担当課に対し、新規計画策定予定である旨連絡することが望ましい。 【県担当課】 ・公共下水道→下水道課 ・農業集落排水→農地・農村振興課 ・浄化槽→水質保全課 ・全体取りまとめ→地域づくり課 ※漁業集落排水については、これまで該当がないため、担当課を置いていない。 | | | | |
| | 根拠法令等 | 地域再生法 地方創生汚水処理施設整備推進交付金交付要綱等 | | | | | | |
| 申請時期・手続き等 | <p>【前年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月 予算要望額調査（新規計画・継続計画） 7月 申請予定計画の事前ヒアリング（新規計画・変更計画） 10月 事前相談（新規計画・継続計画） 1月 ・地域再生計画認定申請（新規計画・変更計画） ・予算最終要望額調査（新規計画・継続計画） 3月 地域再生計画認定（新規計画・変更計画） <p>【実施年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内示 ○交付申請 ○交付決定 <p>※関係省により、各手続きの内容・時期は異なる。</p> | 補助対象事業・補助基準等 | <p>令和3年度実施市町村（1市、1町） 柏市 酒々井町</p> <p>令和4年度実施市町村（1市、1町） 柏市 酒々井町</p> <p>令和5年度実施市町村（1市、1町） 柏市 酒々井町</p> | 事例等 | | | | |
| | | | 補助率・額 | <table border="1"> <tr> <td>対象市町村等数</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>実施市町村等数（5年度）</td> <td>2</td> </tr> </table> | 対象市町村等数 | 95 | 実施市町村等数（5年度） | 2 |
| 対象市町村等数 | 95 | | | | | | | |
| 実施市町村等数（5年度） | 2 | | | | | | | |

| | |
|-------|--------------|
| 助成事業名 | 半島振興広域連携促進事業 |
|-------|--------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------------|----|-----|-------|--------|----|--------|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-4 | 県主管課 | 地域づくり課 | 室等 | 地域活性化室 | 内線 | 2447 |
| 事業実施主体 | 県・市町村・民間団体 | | | 関係省庁名 | 国土交通省 | | | | |

| | | | | | |
|-----------|--|---|--------------|--|---|
| 事業の目的・概要 | 三方を海に囲まれ平地に恵まれず、人口減少・高齢化の進行等に直面する半島地域の自立的発展に向けた地域間交流の促進、産業の振興、定住促進を図るため、半島地域の様々な主体が地域資源や特性を活かして実施する取組を道府県がパッケージ化して一体的・広域的に推進するソフト施策に対する支援を実施し、半島地域の自立的発展を図ることを目的とする。 | | | 対象事業 資源や特性を活かした交流促進、産業振興、定住促進に資する地域における取組をパッケージ化し、それぞれの取組主体が連携・分担して広域的に実施される取組に対し補助を行う。 | 留意事項 |
| | 根拠法令等 | 半島振興広域連携促進事業交付要綱 南房総地域半島振興広域連携促進事業費補助金交付要綱 | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 県要望調査 | 補助対象事業・補助基準等 | 事例等 | 令和元年度実施市町村 (1市、1町) 勝浦市、御宿町 令和2年度実施市町村 実施なし 令和3年度実施市町村 (4市、2町) 勝浦市、鴨川市、南房総市、 いすみ市、大多喜町、御宿町 令和4年度実施市町村 (1市、1町) 勝浦市、御宿町 令和5年度実施市町村 (1市、1町) 勝浦市、御宿町 |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | | | |
| | 7 | | | | |
| | 8 | 国要望調査 | 補助率・額 | 備考 | 「対象市町村等数」は、補助要件に該当するもの。 |
| 9 | 対象市町村等数 | | | | |
| 10 | 交付申請 交付決定 | 補助率・額 | 備考 | 実施市町村等数(5年度) | 2 |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 助成事業名 | U I J ターンによる起業・就業者等創出事業 |
|-------|-------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|-----|----|-----|-------|--------|----|--------|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-5 | 県主管課 | 地域づくり課 | 室等 | 地域活性化室 | 内線 | 2447 |
| 事業実施主体 | 市町村 | | | 関係省庁名 | 内閣府 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|---|--------------|--|--|----|
| 事業の目的・概要 | 条件不利地域（過疎地域、振興山村、半島振興対策実施地域等を有する市町村）への移住及び同地域における起業・就業者の創出の促進に取り組むことで、同地域の活力や魅力を高め、千葉県における地方創生の深化を図る。 | | | 対象事業 県が実施する地域しごとマッチング支援事業及び地域課題解決型企業支援事業と連携し、東京23区等から県内の条件不利地域に移住して就業又は起業等しようとする者等が移住支援金の要件を満たす場合に、居住地の市町が移住支援金を給付する事業。 | 留意事項 地方創生推進交付金を活用した事業であることから、県と連名で策定する地域再生計画に本事業が位置付けられ、かつ、当該計画が内閣総理大臣の認定を受けている必要がある。 | |
| | 根拠法令等 | <ul style="list-style-type: none"> 地方創生推進交付金制度要綱 U I J ターンによる起業・就業者等創出事業補助金交付要綱 | | | | |
| 申請時期・手続き等 | 当該年度分 | 次年度分 | 補助対象事業・補助基準等 | 事例等 | 令和元年度実施市町村 6市3町（館山市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町） | |
| | 4 | 交付申請 交付決定 | | | 令和2年度実施市町村 6市3町（館山市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町） | |
| | 5 | | | | 令和3年度実施市町村 6市3町（館山市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町） | |
| | 6 | | | | 令和4年度実施市町村 7市4町（館山市、旭市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、いすみ市、東庄町、大多喜町、御宿町、鋸南町） | |
| | 7 | | | | 令和5年度実施市町村 10市5町（館山市、旭市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、匝瑳市、香取市、山武市、いすみ市、東庄町、九十九里町、大多喜町、御宿町、鋸南町） | |
| 8 | | 要望調査 | | | 対象市町村等数 | 16 |
| 9 | | 県から国へ 実施計画提出 | | | 実施市町村等数（5年度） | 15 |
| 10 | | 国から県へ 内示 | | | 備考 「対象市町村等数」は、補助要件に該当するもの。 | |
| 11 | | 実績報告 額の確定 請求（精算払） | 補助率 3/4 | 補助率・額 | 備考 （1）受給者の属する世帯の世帯人員が2人以上の場合 なお、18歳未満の世帯員を帯同する場合、18歳未満の者1名につき100万円を加算 1,000千円×受給者数 （2）受給者の属する世帯の世帯人員が1人（単独世帯）の場合 600千円×受給者数 | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 助成事業名 | コミュニティ助成事業（地域国際化推進助成事業） |
|-------|-------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|----------------|----|-----|-------|---------------|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-6 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際政策室 | 内線 | 2941 |
| 事業実施主体 | 市区町村が認める国際交流組織 | | | 関係省庁名 | (一財) 自治総合センター | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------------------------------|--------------|---|------|---------------------------|---|
| 事業の目的・概要 | 宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備、安全な地域づくりと共生のまちづくり、地域文化への支援や地域の国際化の推進及び活力ある地域づくり等に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するものとする。 | | 補助対象事業・補助基準等 | <p>(助成対象団体)</p> <p>市(区)町村(政令指定都市は除く。)、広域連合、一部事務組合及び地方自治法の規定に基づき設置された協議会とする。</p> <p>(対象事業及び分野)</p> <p>市町村が認めるコミュニティ国際交流組織が実施主体となり実施する事業で、多文化共生、国際理解推進など地域レベルでの国際化の推進に資する先導的かつ他の団体の模範となるソフト事業。</p> <p>ただし、次の基準に適合するもの。</p> <p>(1) 宝くじの社会貢献広報の効果が発揮できるもの。</p> <p>(2) 国の補助金及び地方債を充当していないもの。</p> <p>(3) 原則として、短期間に消費若しくは破損するような施設又は設備の整備でないもの。</p> | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治総合センター「コミュニティ助成事業実施要綱」 | | | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 事業募集(県国際課を通じ) | 補助基準等 | | 事例等 | 令和4年度実施市町村(1市) 鴨川市 | |
| | 5 | | | | | 令和5年度実施市町村(2市) 八街市、鴨川市 | |
| | 6 | | | | | | |
| | 7 | | | | | | |
| | 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | 申請書提出締切 | | | | | | |
| 1 | 助成金交付決定通知 | 補助率・額 | | | 備考 | 実施市町村等数(5年度) | 2 |
| 2 | | | | | | ※対象市町村等数については、政令指定都市を除く。 | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |

| | | |
|-------|--------------------|--|
| 助成事業名 | 自治体国際協力促進事業（モデル事業） | |
|-------|--------------------|--|

| | | | | | | | | | |
|--------|--------------------|----|-----|-------|---------------------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-7 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際交流推進室 | 内線 | 2394 |
| 事業実施主体 | 都道府県、市町村及び地域国際化協会等 | | | 関係省庁名 | (一財)自治体国際化協会（CLAIR） | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--------------|---|-------|--|----|--------------|--|----|
| 事業の目的・概要 | 地方自治体等が行う国際協力事業の中から先駆的な役割を果たす事業を「モデル事業」として認定し、積極的に支援をするとともに、広く紹介することにより、自治体が行う国際協力活動の一層の推進を図る。 | | | 留意事項 | | | | | | |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治体国際化協会「自治体国際協力促進事業（モデル事業）助成要綱」 | | | | | | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 事業募集（県国際課を通じ） | 補助対象事業・補助基準等 | <p>(対象事業)</p> <p>1 対象事業は、次の基準に適合するものとする。</p> <p>(1) 地方自治体若しくは地域国際化協会又は地方自治体とNGO若しくは地域国際化協会とNGOが連携して実施する国際協力事業。（事前調査事業を含む。）</p> <p>(2) 新規事業または事業内容の拡充が図られる継続事業であり、事業趣旨・内容等が他の自治体等のモデルケースとなりえる先駆的事业であること。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当する事業は、助成の対象としない。</p> <p>(1) 国及びこれに準ずる機関からの助成を受けている事業</p> <p>(2) 単なる資金供与だけの事業</p> <p>(3) モデル事業の実施に要する経費（次項各号に掲げる経費を除く）の総額（ただし、助成対象団体が参加者負担等を徴する場合には、総額から参加者負担等の収入を控除した額）が100万円以下の事業</p> <p>3 助成対象事業の実施に要する経費のうち、次に掲げる経費については助成対象としない。</p> <p>(1) 補助金</p> <p>(2) 他用途に転用可能な備品整備等</p> <p>(3) 職員等の人件費、光熱水費、家賃、定期刊行物発行に要する経費等、助成対象団体の通常の運営に要する経常的経費</p> <p>(4) 交際費</p> | 事例等 | 令和2年度実施市町村 実施なし | | | | |
| | 5 | | | | | 令和3年度実施市町村 実施なし | | | | |
| | 6 | | | | | 令和4年度実施市町村 実施なし | | | | |
| | 7 | | | | | 令和5年度実施市町村 実施なし | | | | |
| | 8 | | | | | | | | | |
| 9 | 申請書提出締切 | | | | 補助率・額 | <p>(助成額)</p> <p>助成金は、単年度ごとに、助成対象事業の実施に要する経費の総額以内の額で、次の金額を限度とする。</p> <p>(1) 1事業につき300万円</p> <p>(2) 複数の地方自治体等が共同で行う事業については、その事業を実施する団体の数にかかわらず、1事業につき500万円</p> | 備考 | 対象市町村等数 | | 54 |
| 10 | | | | | | | | 実施市町村等数（5年度） | | — |
| 11 | | | | | | | | 交付内定 | | |
| 12 | | 交付決定通知 | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|-----------------|
| 助成事業名 | 多文化共生のまちづくり促進事業 |
|-------|-----------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|--------------------|----|-----|-------|-----------------------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-8 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際交流推進室 | 内線 | 2394 |
| 事業実施主体 | 都道府県及び市町村、地域国際化協会等 | | | 関係省庁名 | (一財) 自治体国際化協会 (CLAIR) | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-------------------------------------|--|--|---|--|--|
| 事業の目的・概要 | 一般財団法人自治体国際化協会は、グローバル化が進展し、日本に居住する外国人住民が定住傾向にある中で、文化的背景を異にする人々が共生・協働する社会の構築を推進するために、地方公共団体及び総務大臣に認定を受けた地域国際化協会等が行う多文化共生施策に要する経費について、予算の範囲内において地方公共団体及び地域国際化協会等に対し、多文化共生のまちづくり促進事業助成金を交付する。 | | 補 助 対 象 事 業 ・ 補 助 基 準 等 | (助成対象事業) 1 助成対象団体が実施する多文化共生を推進する事業のうち、特に重要性及び必要性が高く、他団体の範となる事業で、次に掲げるものとする。 (1) 医療・保健・福祉支援事業 (2) 防災支援事業 (3) 教育支援事業 (4) 労働環境整備事業 (5) 居住・生活支援事業 (6) 外国人住民の自立と社会参画支援事業 (7) 上記 (1) ~ (6) の事業実施にあたり必要となる情報の多言語化や日本語学習支援事業 2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するものは、助成の対象としない。 (1) 助成対象団体が従来から実施している事業の財源の組替えを主とするもの。 (2) 助成対象団体が従来から実施している事業で参加者負担等の軽減を主とするもの。 (3) 単なる資金供与だけのもの。 (4) 国やこれに準ずる機関からの助成を受けているもの。 (5) その他、協会の助成対象事業としてふさわしくないと協会が認めるもの。 | 留 意 事 項 | 地域国際化特別対策事業（多文化共生分野）が廃止され、これに代わる事業として平成25年度から新たに創設された。 助成事業は、当該年度 2 月末までに事業完了する必要がある。 | |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治体国際化協会「多文化共生のまちづくり促進事業実施要綱」 | | 事 例 等 | | 令和 2 年度実施市町村（2 市） 市川市、松戸市 令和 3 年度実施市町村（1 市） 千葉市 令和 4 年度実施市町村（2 市） 千葉市、松戸市 令和 5 年度実施市町村 なし | |
| 申 請 時 期 ・ 手 続 き 等 | 4 | 事業募集（県国際課を通じ） 申請書提出締切（直送） | 補 助 率 ・ 額 | | 1 助成金は、助成対象経費の総額の範囲内とし、その上限額は次のとおり定める。 (1) 都道府県及び市町村のうち指定都市にあつては、1 団体あたり 400 万円とする。 (2) 市区町村（指定都市を除く。）、地域国際化協会にあつては、1 団体あたり 300 万円とする。 (3) 複数の助成対象団体が共同で行う事業については、その事業を実施する団体の数にかかわらず、1 事業あたり 400 万円とする。 2 助成金の下限額は、50 万円とする。 | 備 考 | |
| | 5 | | | | | | |
| | 6 | | | | | | |
| | 7 | | | | | | |
| | 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | 対象市町村等数 | 5 4 | | | |
| 1 | | | 実施市町村等数（5 年度） | — | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |

| | |
|-------|--------------------|
| 助成事業名 | 経済活動助成事業（インバウンド支援） |
|-------|--------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------------|----|-----|-------|----------------------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-9 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際交流推進室 | 内線 | 2394 |
| 事業実施主体 | 都道府県及び市区町村 | | | 関係省庁名 | (一財)自治体国際化協会 (CLAIR) | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|------------------------------|---|--|---|------|---|-------------|--------------------|---------|-----|----|---|---|---|---|---|---------------|-----------------------|---|
| 事業の目的・概要 | 一般財団法人自治体国際化協会は、地方公共団体の海外観光客誘致に対するニーズの高まりを受け、海外事務所等の機能を活用しながら、地方公共団体の国際化支援のため、助成とサポートが一体となった事業を実施することとする。 | | | 補 助 対 象 事 業 ・ 補 助 基 準 等 | <p>(助成対象事業)</p> <p>1 助成対象事業は、助成対象団体が実施する事業のうち、事業実施によって将来的に経済効果が見込まれ、他の地方公共団体の取組の参考となることが見込まれる事業で、次の各号のいずれにも該当するものとする。</p> <p>(1) 当該地方公共団体への海外観光客の誘致促進のために実施する事業</p> <p>(2) 原則として新規事業とし、継続事業であっても特色が示せる事業</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事項のいずれかに該当する事業は、助成の対象としない。</p> <p>(1) 国及びこれに準ずる機関からの助成を受けている事業</p> <p>(2) 単なる資金供与だけの事業</p> <p>(3) 事業の実施に要する経費（次項各号に掲げる経費を除く）の総額（事業参加業者負担金や売上など他の収入がある場合は、総額から当該収入を控除した額）（以下、「助成対象経費」という。）が200万円以下の事業</p> <p>3 助成対象事業の実施に要する経費のうち、次に掲げる経費については助成対象としない。</p> <p>(1) 補助金</p> <p>(2) 職員旅費</p> <p>(3) 他用途に転用可能な備品整備等</p> <p>(4) 工事を伴う施設整備等</p> <p>(5) 経常的経費</p> | 留意事項 | 助成対象事業については、協会海外事務所又は協会の支援・協力を受けることができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治体国際化協会「経済活動助成事業実施要綱」 | | | | | 申 請 時 期 ・ 手 続 き 等 | 事 例 等 | 令和2年度実施市町村 実施なし | 対象市町村等数 | 5 4 | | | | | | | | | |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | 11 | | | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 事業募集（県国際課を通じ） | 補 助 率 ・ 額 | <p>(助成額)</p> <p>助成対象経費の1/2以内の額で、次の金額を上限とする。</p> <p>(1) 主として海外で行う事業 1事業あたり500万円</p> <p>(2) 主として日本国内で行う事業 1事業あたり300万円</p> |
| | | | | | | | 令和4年度実施市町村 実施なし | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 令和5年度実施市町村 実施なし | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 令和2年度実施市町村 実施なし | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 令和3年度実施市町村（1町一宮町） | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|--------------------|
| 助成事業名 | 経済活動助成事業（海外販路開拓支援） |
|-------|--------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------------|----|------|-------|----------------------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-10 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際交流推進室 | 内線 | 2394 |
| 事業実施主体 | 都道府県及び市区町村 | | | 関係省庁名 | (一財)自治体国際化協会 (CLAIR) | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|------------------------------|--------------|--|---|--|---------|--------------|--|---|--|
| 事業の目的・概要 | 一般財団法人自治体国際化協会は、地方公共団体の販路開拓に対するニーズの高まりを受け、海外事務所等の機能を活用しながら、地方公共団体の国際化支援のため、助成とサポートが一体となった事業を実施することとする。 | | | 留意事項 | 助成対象事業については、協会海外事務所又は協会のアドバイザーの支援・協力を受けることができる。 | | | | | | |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治体国際化協会「経済活動助成事業実施要綱」 | | | 事例等 | 令和2年度実施市町村等（1県） 千葉県 令和3年度実施市町村等（1県） 千葉県 令和4年度実施市町村等（1県） 千葉県 令和5年度実施市町村等（1県） 千葉県 | | | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 事業募集（県国際課を通じ） | 補助対象事業・補助基準等 | (助成対象事業) 1 助成対象事業は、助成対象団体が実施する事業のうち、事業実施によって将来的に経済効果が見込まれ、他の地方公共団体の取組の参考となることが見込まれる事業で、次の各号のいずれにも該当するものとする。 (1) 地方公共団体の地元産品等の海外における販売促進のために実施する事業 (2) 原則として新規事業とし、継続事業であっても特色が示せる事業 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事項のいずれかに該当する事業は、助成の対象としない。 (1) 国及びこれに準ずる機関からの助成を受けている事業 (2) 単なる資金供与だけの事業 (3) 事業の実施に要する経費（次項各号に掲げる経費を除く）の総額（事業参加者負担金や売上など他の収入がある場合は、総額から当該収入を控除した額）（以下、「助成対象経費」という。）が200万円以下の事業 3 助成対象事業の実施に要する経費のうち、次に掲げる経費については助成対象としない。 (1) 補助金 (2) 職員旅費 (3) 他用途に転用可能な備品整備等 (4) 工事を伴う施設整備等 (5) 経常的経費 | | 備考 | 対象市町村等数 | | 54 | | |
| | 5 | | | | 申請書提出締切（直送） | | 補助率・額 | 実施市町村等数（5年度） | | — | |
| | 6 | | | | | | | 内定通知 | (助成額) 助成対象経費の1/2以内の額で、次の金額を上限とする。 (1) 主として海外で行う事業 1事業あたり500万円 (2) 主として日本国内で行う事業 1事業あたり300万円 | | |
| | 7 | | | | | | | | | | |
| | 8 | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | |
| 11 | 交付決定通知 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|----------|
| 助成事業名 | 国際交流支援事業 |
|-------|----------|

| | | | | | | | | | |
|--------|--------------------|----|------|-------|-----------------------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | その他 | 分類 | 2-11 | 県主管課 | 国際課 | 室等 | 国際交流推進室 | 内線 | 2394 |
| 事業実施主体 | 都道府県、市区町村及び地域国際化協会 | | | 関係省庁名 | (一財) 自治体国際化協会 (CLAIR) | | | | |

| | | | | | |
|-----------|--|------------------------------|---|---|---|
| 事業の目的・概要 | 一般財団法人自治体国際化協会は、地域の国際化を推進するために、地方公共団体及び総務大臣に認定を受けた地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、特に重要性、必要性の高い事業について、予算の範囲内において地方公共団体及び地域国際化協会に対し助成金を交付する。 | | | (助成対象事業) 1 助成対象団体が新規に実施する国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民等の幅広い参加が見込まれる事業で次の各号のいずれかに該当する事業とする。ただし、継続的に行われている事業であっても他の地方公共団体及び地域国際化協会のモデルとなり得る先駆的な事業であれば対象とする。 (1) 姉妹提携又は友好提携に関する記念事業 (2) 文化、芸術又は研究に関する交流事業 (3) 青少年交流に関する事業 (4) 国際会議に関する事業 (5) その他地域の特色を活かした交流事業 2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する事業は、助成対象としない。 (1) 単なる資金供与だけの事業 (2) 国、地方公共団体及びこれに準ずる機関からの助成を受けている事業 (3) 次項に掲げる事業実施に係る助成対象経費が200万円以下の事業 (4) その他協会の助成事業としてふさわしくないと協会が認める事業 3 助成対象経費は、助成対象となる事業に要する経費(ただし、助成対象団体が参加者負担等を徴する場合には、総額から参加者負担等の収入を控除した額)とする。 4 前項の規定にかかわらず、次に掲げる経費は助成対象としない。なお、委託費に計上する場合も同様とする。 (1) 補助金 (2) 職員旅費 (3) 他用途に転用可能な備品整備等 (4) 工事を伴う施設整備等 (5) 職員等の人件費、光熱水費、家賃、定期刊行物発行に要する経費など、助成対象団体の通常運営に要する経常的経費 (6) 積立金及び預金(周年事業等に対する計画的な積み立てを含む。) | 留意事項 平成26年度まで「地域国際化施策支援事業」として実施していたが、事業の見直し等により、平成27年度から「国際交流支援事業」へ変更となった。 |
| | 根拠法令等 | 一般財団法人自治体国際化協会「国際交流支援事業実施要綱」 | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 事業募集(県国際課を通じ) | 補助対象事業・補助基準等 | 事例等 | 令和2年度実施市町村等 実施なし |
| | 5 | | | | |
| 6 | 令和4年度実施市町村等 実施なし | | | | |
| 7 | 令和5年度実施市町村等(1市) 松戸市 | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | 交付決定通知 | | | | 対象市町村等数 54 |
| | | | | | 実施市町村等数(5年度) 1 |
| | | | 補助率・額 | 備考 | |
| | | | 助成額は、助成対象経費の総額の1/2以内の額で、次の金額を上限とする。 (1) 主として海外で行う事業 1事業あたり500万円 (2) 主として日本国内で行う事業 1事業あたり300万円 | | |

| | |
|-------|-------------|
| 助成事業名 | 地域日本語教育推進事業 |
|-------|-------------|

| | | | |
|--------|-----|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-12 |
| 事業実施主体 | 市町村 | | |

| | | | | | |
|-------|-------|----|----------|----|------|
| 県主管課 | 国際課 | 室等 | 多文化共生推進班 | 内線 | 2436 |
| 関係省庁名 | 文部科学省 | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------------------------|--------|---|------|---------------------------|---|
| 事業の目的・概要 | 言語、文化、習慣等にかかわらず安心して暮らし、地域社会の一員として活躍できる社会づくりの一環として、市町村が実施する、外国人が生活等に必要な日本語能力を身に付ける環境を整備する事業に対して経費を補助する。 | | 補助対象事業 | 1 地域日本語教育の実施 外国人が生活等に必要な日本語能力を身に付けるための、地域の実情に合わせた日本語教育の実施 2 日本語教育人材に対する研修 地域の日本語教育を担う人材(日本語学習支援者、教室ファシリテーター等)に対する養成・研修の実施 3 日本語教育に関する広報活動 日本語教育の円滑かつ効果的な実施を目的とした広報活動(住民向け説明会、広報物の配布、WEBサイトやSNSを活用した広報等)の実施 4 ICTを活用した教育・支援 ICTを活用した、学習者や学習支援者等への効率的な教育・支援の実施 5 教材作成 地域の実情に応じた日本語教育のカリキュラムなど教材作成の実施 上記に要する経費 | 留意事項 | 指定都市が文化庁補助事業を直接実施する場合は対象外 | |
| | 根拠法令等 | 千葉県市町村地域日本語教育推進事業補助金交付要綱 | | | | 事例等 | 令和5年度実施市町村(6市町) 松戸市 成田市 浦安市 袖ヶ浦市 印西市 横芝光町 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 県へ交付申請 交付決定 事業の実施 | 基準等 | | | | |
| | 5 | | | | | | |
| | 6 | | | | | | |
| | 7 | | | | | | |
| | 8 | | | | | | |
| 9 | | | | 対象市町村等数 | | 54 | |
| 10 | | | | 実施市町村等数(5年度) | | 6 | |
| 11 | | | | 補助率・額 | 備考 | 市町村負担分に対しては特別交付税措置あり | |
| 12 | | | | | | | |
| 1 | 次年度活用希望調査 | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | 実績報告 額の確定 補助金の交付 | 補助率 1/2以内 補助限度額100万円 | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 助成事業名 | 水道施設整備費（簡易水道等施設整備費国庫補助） |
|-------|-------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-------|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-13 | 県主管課 | 水政課 | 室等 | 水道事業室 | 内線 | 2629 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | 国土交通省 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|--|---|--|---|--|---|
| 事業の目的・概要 | 水道の普及を図るため、市町村等が行う簡易水道等の施設を整備する事業に要する経費に対して補助金を交付する。 | | 1 補助対象事業 ① 水道未普及地域解消事業 ア 新設 イ 広域簡易水道 ウ 飛地区域 エ 給水区域内無水源 オ 区域拡張 ② 簡易水道再編推進事業 ア 統合簡易水道 イ 簡易水道統合整備事業 ③ 生活基盤近代化事業 ア 増補改良 イ 基幹改良 ウ 水量拡張 | 留意事項 | 令和6年度以降、簡易水道等施設整備費国庫補助は水道施設整備費に移行された。 | |
| | 根拠法令等 | 水道法第44条 簡易水道等施設整備費国庫補助金交付要綱 簡易水道等施設整備費国庫補助金取扱要領 | | | 補助対象事業・補助基準等 | 令和3年度実施市町村等なし 令和4年度実施市町村等 芝山町 令和5年度実施市町村等 芝山町 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 内示 | 2 補助対象施設 取水施設、導水施設、浄水施設及び配水施設。なお、飲料水供給施設については給水栓と立上り管を除き、屋外に設置される給水施設も補助対象となる。 | 事例等 | 対象市町村等数 39事業者 (R5.4.1現在) | |
| | 5 | 所要額調べ 交付申請 | | | | |
| | 6 | | | | | |
| | 7 | | | | | |
| | 8 | | | | | |
| 9 | | | 備考 | ※対象市町村等数は、補助要件に該当するもの(県企業局を含む) ※対象特別地方公共団体 かずさ水道広域連合企業団、長門川水道企業団、八匠水道企業団、山武郡市広域水道企業団、長生郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団 | | |
| 10 | 交付決定 | 補助率・額 | | | 市町村の財政力指数と単位管延長（総管延長を計画給水人口で除して得た数値）を基準として補助率は次の3通りとなっている。 1/4、1/3、4/10 | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | 翌年度補助金本要望 | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | 実績報告 | | | | | |
| 5 | | | | | | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 助成事業名 | 水道施設整備費（水道水源開発等施設整備費国庫補助） |
|-------|---------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-------|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-14 | 県主管課 | 水政課 | 室等 | 水道事業室 | 内線 | 2629 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | 国土交通省 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|---|----------------------------------|--|------|---|--|------------------|--|
| 事業の目的・概要 | 市町村等が行う水道施設の整備等に係る事業に要する経費に対して補助金を交付する。 | | 1 補助対象事業 ① 水道水源開発施設整備費 ア 水道水源開発施設整備費 イ 遠距離導水等施設整備費 ウ 水道機能維持施設整備費 ② 高度浄水施設等整備費 ア 高度浄水施設等整備費 | 留意事項 | 令和6年度以降、水道水源開発等施設整備費国庫補助は水道施設整備費に移行された。 | | | |
| | 根拠法令等 | 水道法第44条 水道水源開発等施設整備費国庫補助金交付要綱 | | | 補助対象事業・補助基準等 | 2 補助対象施設 ① 水道水源開発施設整備費 ダム、堰、水路、非常用発電設備、土砂流入防止壁、防水扉等 ② 高度浄水施設等整備費 生物処理施設、オゾン処理施設、活性炭処理施設、膜ろ過施設、紫外線処理施設等 | 事例等 | 令和3年度実施市町村等 印旛郡市広域市町村圏事務組合、千葉県企業局、九十九里地域水道企業団、かずさ水道広域連合企業団、南房総市 令和4年度実施市町村等 印旛郡市広域市町村圏事務組合、千葉県企業局、九十九里地域水道企業団、かずさ水道広域連合企業団 令和5年度実施市町村等 印旛郡市広域市町村圏事務組合、千葉県企業局、かずさ水道広域連合企業団 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 内示 | 補助対象率・額 | 備考 | 対象市町村等数 | 43事業者 (R5.4.1現在) | | |
| | 5 | 所要額調べ 交付申請 | | | | 資本単価（20年間の減価償却費と支払利息を20年間の総有収水量で除して得た1立方メートル当たりの費用）などを基準として補助率は次の3通りとなっている。 1/4、1/3、1/2 | 実施市町村等数 (5年度) | 3事業者 |
| | 6 | 交付決定 | | | | | | ※対象市町村等数は、補助要件に該当するもの(県企業局を含む) ※対象特別地方公共団体 九十九里地域水道企業団、北千葉広域水道企業団、東総広域水道企業団、かずさ水道広域連合企業団、印旛郡市広域市町村圏事務組合、南房総広域水道企業団、長門川水道企業団、八匠水道企業団、山武郡市広域水道企業団、長生郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団 |
| | 7 | | | | | | | |
| | 8 | | | | | | | |
| 9 | 翌年度補助金本要望 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | |
| 11 | 実績報告 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 助成事業名 | 防災・安全交付金（生活基盤施設耐震化等交付金） |
|-------|-------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-------|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-15 | 県主管課 | 水政課 | 室等 | 水道事業室 | 内線 | 2629 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | 国土交通省 | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------|--|------------------------------|---|------|---|------------------|---|
| 事業の目的・概要 | 市町村等が行う水道施設の耐震化等に係る事業に要する経費に対して交付金を交付する。 | | 1 補助対象事業 ① 水道施設等耐震化事業 ア 水道未普及地域解消事業 イ 簡易水道再編推進事業 ウ 生活基盤近代化事業 エ 高度浄水施設等整備事業 オ 緊急時給水拠点確保事業 カ 水道管路耐震化等推進事業 ② 水道事業運営基盤強化推進事業 ア 水道事業運営基盤強化推進事業 イ 水道広域化施設整備費 ウ 水道水源自動監視施設整備費 | 留意事項 | 平成27年度以降、平成26年度まで補助対象事業であった、簡易水道再編推進事業及び生活基盤近代化事業は、生活基盤施設耐震化等交付金に移行された。 令和6年度以降、生活基盤施設耐震化等交付金は防災・安全交付金に移行された。 | | |
| | 根拠法令等 | 水道法第44条 生活基盤施設耐震化等交付金交付要綱 | | | 補助対象事業・補助基準等 | 事例等 | 令和3年度実施市町村等 白井市外10事業者 令和4年度実施市町村等 白井市外8事業者 令和5年度実施市町村等 白井市外12事業者 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 交付額内示 | 2 補助対象施設 取水施設、導水施設、浄水施設、送配水施設 | 備考 | 対象市町村等数は、補助要件に該当するもの(県企業局を含む) ※対象特別地方公共団体 九十九里地域水道企業団、北千葉広域水道企業団、東総広域水道企業団、かずさ水道広域連合企業団、印旛郡市広域市町村圏事務組合、南房総広域水道企業団、長門川水道企業団、八匝水道企業団、山武郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団 | | |
| | 5 | 所要額調べ 交付申請 | | | | | |
| | 6 | 翌年度事業計画提出（県） | | | | 対象市町村等数 | 44事業者 (R5.4.1現在) |
| | 7 | | | | | 実施市町村等数 (5年度) | 13事業者 |
| | 8 | | | | | | 交付決定 |
| 9 | 翌年度補助金本要望 翌年度耐震化等事業計画提出 | 補助率・額 | 資本単価（20年間の減価償却費と支払利息を20年間の総有収水量で除して得た1立方メートル当たりの費用）、有収密度などを基準として補助率は次の4通りとなっている。 1/4、1/3、1/2、4/10 | | | | |
| 10 | 実績報告、交付額確定 | | | | | | |

| | |
|-------|------------|
| 助成事業名 | 簡易水道施設事業補助 |
|-------|------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-----|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-16 | 県主管課 | 水政課 | 室等 | 水道事業室 | 内線 | 2629 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | |
|-----------|--|---|--|-----------------|---|
| 事業の目的・概要 | 水道の普及を図るため、市町村等が行う簡易水道等の施設を整備する事業に要する経費に対して補助金を交付する。 | | 1 補助対象事業 ① 水道未普及地域解消事業 ア 新設 イ 広域簡易水道 ウ 飛地区域 エ 給水区域内無水源 オ 区域拡張 ② 簡易水道再編推進事業 ア 統合簡易水道 イ 簡易水道統合整備事業 ③ 生活基盤近代化事業 ア 増補改良 イ 基幹改良 ウ 水量拡張 | 留意事項 | |
| | 根拠法令等 | 簡易水道施設事業補助金交付要綱 | | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 国からの内示（国庫補助金） | 補 助 対 象 事 業 ・ 補 助 基 準 等 | 事 例 等 | |
| | 5 | 所要額調べ（国庫補助） | | | |
| | 6 | 交付申請（国庫補助金に基づく県費補助算出） | | | |
| | 7 | 交付決定 | | | |
| | 8 | 翌年度整備計画提出（県） | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | 対象市町村等数 | 37 事業者 (R5.4.1 現在) |
| 1 | | | | 実施市町村等 (5年度) | 2 事業者 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | 実績報告書 | 国庫補助又は交付金（厚生労働省）採択事業 財政力指数 0.3 超の場合 10/100 財政力指数 0.3 以下の場合 15/100 国庫補助及び交付金採択外事業 財政力指数 0.3 超の場合 8/100 財政力指数 0.3 以下の場合 10/100 | 補 助 率 ・ 額 | 備 考 | ※対象市町村等数は、補助要件に該当するもの。(県企業局、千葉市は対象外) ※対象特別地方公共団体 かずさ水道広域連合企業団、長門川水道企業団、八匠水道企業団、山武郡市広域水道企業団、長生郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 助成事業名 | 末端給水事業体の統合・広域連携に係る調査検討事業補助金 |
|-------|-----------------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-----|---|-------------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-17 | 県担当課 | 水政課 | 室 | 水道事業統合・広域化室 | 内線 | 2274 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|----------------------------------|--|--|---|--------------------------------|
| 事業の目的・概要 | 市町村等が担う末端給水事業についての統合・広域連携の促進を図るため、末端給水事業の統合・広域連携に係る調査検討及び統合基本計画の策定等に要する経費について、補助金を交付する。 | | 1 補助対象者 末端給水事業の統合・広域連携の検討を行うために地域ごとに設立した研究会又は統合協議会等の事務局を置く市町村及び一部事務組合 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | 千葉県末端事業体の統合・広域連携に係る調査検討事業補助金交付要綱 | | | 補助対象事業・補助基準等 | 令和2年度実施市町村等（1団体） ・東総広域水道企業団 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 交付申請 交付決定 | 2 補助対象事業 ①末端給水事業の統合・広域連携に係る調査の実施及び統合協議会設置前の基本構想の策定に要する経費のうち委託料 ②統合協議会設置後の事業認可取得に向けた統合基本計画の策定に要する経費のうち委託料 | 事例等 | | 令和3年度実施市町村等（なし） |
| | 5 | 翌年度補助要望調査 | | | 令和4年度実施市町村等（1市、1団体） ・いすみ市 ・安房郡市広域市町村圏事務組合 | |
| | 6 | | | | 令和5年度実施市町村等（1市、1団体） ・いすみ市 ・安房郡市広域市町村圏事務組合 | |
| | 7 | | | | | |
| | 8 | | | | | |
| 9 | | | | 対象市町村等数 | 5団体※ | |
| 10 | | | | 実施市町村等数（5年度） | 2団体 | |
| 11 | | | | 備考 | | |
| 12 | | | 補助率 | 補助対象経費の2分の1以内 | | |
| 1 | | | 補助限度額 | ①10,000千円（2か年） ②10,000千円（2か年） | | |
| 2 | | | 補助率・額 | ※対象市町村等数は補助対象要件に該当するもの。要綱上は、1地域1団体に補助を行うこととし、補助対象地域を限定しているが、新たに検討を開始する地域があれば、予算の範囲内で対象地域を追加していく。 | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | 実績報告 交付額の確定及び精算 | | | | |
| 5 | | | | | | |

| | |
|-------|-------------------|
| 助成事業名 | 水道施設緊急電源確保対策事業補助金 |
|-------|-------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|-------|-----|---|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-18 | 県担当課 | 水政課 | 室 | 水道事業室 | 内線 | 2629 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------------|--|--|---|---|---------------------|
| 事業の目的・概要 | 災害時における水の安定供給の確保に資することを目的とし、重要給水施設へ給水する水道施設の非常用発電設備の整備に要する経費に対して補助する。 | | 補助対象事業 | <p>1 補助対象事業 重要給水施設へ給水する水道施設の非常用発電設備の整備事業</p> <p>2 補助対象施設 以下の要件を満たす水道施設のうち、令和3年度から令和7年度の5ヶ年で水道事業者が非常用発電設備の整備を行う施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重要給水施設に至るルート上の施設 ○他の施設からのバックアップができない施設 ○国庫補助の対象外となる施設 ○上記の3点を満たす水道施設において、1日平均給水量を確保するために必要な非常用発電設備の整備 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | | | | | <p>令和3年度実施市町村等 かずさ水道広域連合企業団</p> <p>令和4年度実施市町村等 かずさ水道広域連合企業団</p> <p>令和5年度実施市町村等 かずさ水道広域連合企業団</p> | 対象市町村等数 |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 交付申請 | 補助基準等 | | 事例等 | 対象市町村等数 | 43事業者 (R5.4.1現在) |
| | 5 | 交付決定 | | | | | |
| | 6 | | | | | | |
| | 7 | | | | | | |
| | 8 | 翌年度整備計画提出(県) | | | | | |
| 9 | | 補助率・額 | <p>1/4以内(市町村の繰出金を上限) ただし、一施設当たりの補助は12,500千円を上限とする。</p> | 備考 | <p>※対象市町村等数は、補助要件に該当するもの</p> <p>※対象特別地方公共団体 九十九里地域水道企業団、北千葉広域水道企業団、東総広域水道企業団、かずさ水道広域連合企業団、印旛郡市広域市町村圏事務組合、南房総広域水道企業団、長門川水道企業団、八匠水道企業団、山武郡市広域水道企業団、長生郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団</p> | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | 実績報告書 | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |

| | |
|-------|---------------|
| 助成事業名 | 市町村水道総合対策事業補助 |
|-------|---------------|

| | | | |
|--------|------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-19 |
| 事業実施主体 | 市町村等 | | |

| | | | | | |
|-------|-----|----|-------|----|------|
| 県主管課 | 水政課 | 室等 | 水道事業室 | 内線 | 2628 |
| 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|---|-----------------|--------|---|------|--|---------------------|--|
| 事業の目的・概要 | 市町村、又は市町村が組織する一部事務組合が経営する水道事業に補助することにより、水道料金の格差を是正し、住民負担の軽減を図るとともに、経営の健全化を促進することを目的とする。 | | 補助対象事業 | 1 補助対象 市町村、又は市町村が組織する一部事務組合が経営する水道事業で、前年度給水原価が基準給水原価を超え、かつ市町村の一般会計から高料金対策としての繰出を受けていること。 | 留意事項 | 補助金を受けようとするものは、経営改善計画を作成し、知事の承認を得ることが必要である。 | | |
| | 根拠法令等 | 市町村水道総合対策事業助成要綱 | | 2 補助金限度額 次のいずれか低い額 ①市町村一般会計から高料金対策として繰り出す額 ②(前年度給水原価-基準給水原価)×前年度年間有収水量÷2 上記補助金限度額からの控除額 ①前年度供給単価による控除 ②前年度財政状況による控除 ③前年度運営費による控除 | | 令和3年度実施市町村等 八街市外17事業者 令和4年度実施市町村等 八街市外17事業者 令和5年度実施市町村等 八街市外18事業者 | | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | | 補助基準等 | | 事例等 | | | |
| | 5 | | | | | | | |
| | 6 | 補助要望調査 | | | | | | |
| | 7 | 翌年度補助要望調査 | | | | | | |
| | 8 | 当年度補助金ヒアリング | | | | | | |
| | 9 | | | | | | | |
| | 10 | | | | | | | |
| | 11 | | | | | | | |
| | 12 | 経営改善計画承認申請 | | | | 対象市町村等数 | 35事業者 (R5.4.1現在) | |
| | 1 | 経営改善計画承認 | | | | 実施市町村等 (5年度) | 19事業者 | |
| | 2 | 交付申請 交付決定 | 補助率・額 | 上記2の算出による。 | 備考 | ※対象市町村等数は、水道事業を経営する市町村又は市町村が組織する一部事務組合の数。 | | |
| | 3 | 交付(概算払) | | | | ※対象一部事務組合 長門川水道企業団、八匠水道企業団、山武郡市広域水道企業団、長生郡市広域市町村圏組合、三芳水道企業団 | | |
| | 4 | 実績報告 | | | | | | |
| | 5 | 交付額の確定及び精算 | | | | | | |

| | |
|-------|-----------------------|
| 助成事業名 | 千葉県成田国際空港共同利用施設整備事業補助 |
|-------|-----------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------|----|------|-------|---------|----|---------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-20 | 県主管課 | 空港地域共生課 | 室等 | 成田空港共生室 | 内線 | 2282 |
| 事業実施主体 | 市町村又は一部事務組合 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|--|--------------|--|------|---|--|
| 事業の目的・概要 | 共同利用施設整備事業補助は、市町村又は一部事務組合が空港周辺住民の騒音障害の緩和に資するため、騒防法第6条に規定する学習・集会等の用に供するための施設その他の一般住民の生活に必要な共同利用施設を建設した場合にその費用の一部を補助する事業であり、事業の種目として共同利用施設設置事業と地方債等元利償還金支払事業がある。 | 補助対象事業・補助基準等 | 1 補助対象経費 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | | <ul style="list-style-type: none"> 公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律 千葉県成田国際空港共同利用施設整備事業補助金交付要綱 | | <ul style="list-style-type: none"> 共同利用施設設置事業 市町村又は一部事務組合が設計を委託した共同利用施設に係る設計料及び監督料 地方債等元利償還金支払事業 市町村又は一部事務組合が共同利用施設を整備した際の経費に充てるために起こした地方債及び市町村振興資金の元利償還金 | 令和3年度実施市町村等数 (補助対象) ・地方債等元利償還金支払事業 (2市1町) 成田市、山武市、多古町 令和4年度実施市町村等数 (補助対象) ・地方債等元利償還金支払事業 (2市1町) 成田市、山武市、多古町 令和5年度実施市町村等数 (補助対象) ・共同利用施設設置事業 (1町) 多古町 ・地方債等元利償還金支払事業 (2市) 成田市、山武市 |
| 申請時期・手続き等 | 4月 5月 6月 7月 8月 交付申請 9月 交付決定 10月 11月 12月 1月 2月 3月 実績報告 4月 額の確定・交付請求 5月 支払 | 補助率・額 | 2 補助対象となる共同利用施設 (共通) | 事例等 | | |
| | ①一般住民の学習・保育・休養又は集会の用に供するための施設 ②有線ラジオ放送業務設備 ③国土交通大臣が指定する施設 養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センター、隣保館、図書館、青年の家 等 | | 補助対象経費の2分の1以内 (共通) ただし、共同利用施設設置事業においては千葉県使用料及び手数料条例第3条第2項に規定する設計手数料及び監督手数料の算出方法に基づく額の2分の1を限度額とする。 | | ※騒防法 公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律 ※一部事務組合 山武郡市広域行政組合 | |
| | | | | | 対象市町村等数 | 7 |
| | | | | | 実施市町村等 (5年度) | 3 |

| | |
|-------|-------------------|
| 助成事業名 | 鉄道駅バリアフリー設備整備事業補助 |
|-------|-------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------------|----|------|-------|-------|----|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-21 | 県主管課 | 交通計画課 | 室等 | 鉄道事業室 | 内線 | 2279 |
| 実施事業主体 | 市町村又は鉄道事業者 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|------------------------|--|------|---|--|
| 事業の目的・概要 | 高齢者や障害者をはじめ、誰にでも利用しやすい駅とするため、市町村が行う鉄道駅バリアフリー設備整備補助に要する経費に対して補助を行う。 | | 1 交付の対象 市町村 2 補助対象事業 (1) 鉄道事業者が補助対象駅に障害者対応エレベーター、ホームドア、または内方線付き点状ブロック等を整備する事業に対して市町村が補助金等を支出する事業 (2) 市町村が補助対象駅に障害者対応エレベーター等を整備する事業 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | 鉄道駅バリアフリー設備整備事業補助金交付要綱 | | | 3 補助対象駅 以下の要件に該当し、知事が特に認めるもの (1) エレベーター等を整備する事業で次の一以上を満たす既存鉄道駅 ① 1日の利用者数が3,000人以上の駅 ② 駅を中心としたおおむね半径2km以内に、病院、社会福祉施設、特別支援学校等が存する駅 ③ 他の路線への乗換駅 (2) ホームドア又は内方線付き点状ブロックを整備する事業で次の一以上を満たす既存鉄道駅 ① 1日の利用者数が100,000人以上の駅 ② 駅を中心としたおおむね半径2km以内に、病院、社会福祉施設、特別支援学校等が存する駅 ③ 他の路線との乗換客が多い等、駅の利用状況から特に設置が必要と認められる駅 | 令和3年度実施市町村(4市) 市川市、船橋市、松戸市、柏市 令和4年度実施市町村(1町) 横芝光町 令和5年度実施市町村(3市) 木更津市、松戸市、我孫子市 |
| 申請時期・手続き等 | <ul style="list-style-type: none"> 4 交付申請 5 交付決定 6 翌年度の事業計画書の提出、ヒアリング等 7 " 8 " 9 10 11 12 1 2 3 実績報告 4 額の確定・請求 5 支払 | 補助対象事業・補助基準等 | 補助率 1/2 ただし、上限額有り | 事例等 | 対象市町村等数 | 47 |
| | | | | | 実施市町村等数(令和5年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター 2市2駅6基 ・ホームドア 1市1駅2線 ・内方線付き点状ブロック 1市1駅2線 |
| | | | | 備考 | 平成9年度創設 平成25年度から、1日の利用者数が10万人以上の駅を対象に、ホームドア及び内方線付き点状ブロックを補助対象施設に追加。 ※「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」第30条の要件を満たすことで地方債の起債可能。 | |

| | |
|-------|--------------------|
| 助成事業名 | 持続可能な地域公共交通の確保支援事業 |
|-------|--------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|------------|----|------|-------|-------|---|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-22 | 県担当課 | 交通計画課 | 室 | 企画調整班 | 内線 | 2063 |
| 事業実施主体 | 市町村又は法定協議会 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------|--|---------------------------|--|---|------|---|--|
| 事業の目的・概要 | 人口減少等による利用者数の減少や運転手不足など、路線バスを取り巻く環境が厳しさを増す中、地域公共交通を持続可能なものとしていくため、市町村域を超えた広域の交通網の活性化や見直しに取り組む市町村に対して支援を行う。 | | | (対象事業) (1) 広域的な交通計画策定のための事業 (2) 広域的な地域公共交通の活性化を目的とした乗降実態調査等を行う事業 (3) 広域的な地域公共交通の活性化を目的とした実証運行を行う事業 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | 持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金交付要綱 | | | | 広域的な交通計画策定事業、バス路線再編のための実態調査事業、バス路線再編のための実証運行事業 | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 申請 | 補助対象事業・補助基準等 | (補助対象事業費) (1) 広域的な交通計画策定のための調査に要する費用 (2) バス路線の再編・最適化、利用促進等を検討する際に必要となる各種実態調査に要する費用 (3) バス路線の再編・最適化、利用促進等を検討する際に必要となる実証運行に要する費用 | 事例等 | 令和2年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会 市原市 館山市 | |
| | 5 | | | | | 令和3年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会 | |
| | 6 | 交付決定 | (補助対象経費) 補助対象事業費から次に掲げる収入を除いたもの ① 国庫補助金、交付金等 ② 寄附金 ③ その他の収入(補助対象事業において補助対象者が得た収入等) | 香取市 東金市 | | | |
| | 7 | 翌年度要望調査 | | 令和4年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会 | | | |
| | 8 | | | 令和5年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会 南房総市地域公共交通活性化協議会 | | | |
| 9 | | | 対象市町村等数 | 55 | | | |
| 10 | | | 実施市町村等数(5年度) | 2 | | | |
| 11 | | | 補助率 | 補助率: 1/2以内 補助上限額: (1) 国の補助上限額の1/2 (2) 3,000千円 (3) 3,000千円 | 備考 | ※対象市町村等数は、54市町村及び1広域法定協議会(南房総・館山地域公共交通活性化協議会)。 | |
| 12 | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | 実績報告 | | | | | | |
| 4 | 額の確定・請求 | | | | | | |
| 5 | 交付 | | | | | | |

| | |
|-------|------------------|
| 助成事業名 | 新モビリティサービス導入推進事業 |
|-------|------------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|-------------|----|------|-------|-------|---|-------|----|------|
| 国補・県単別 | 県単 | 分類 | 2-23 | 県担当課 | 交通計画課 | 室 | 企画調整班 | 内線 | 2063 |
| 事業実施主体 | 市町村又は法定協議会等 | | | 関係省庁名 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|---|-------------------------|--------------|---|------|--|--|--|
| 事業の目的・概要 | 人口減少や過疎化の進展、運転手不足等により、地域の移動手段の確保が厳しさを増している中、地域公共交通の利便性や効率性等の向上を図るため、スマートフォンやICT、AI等のデジタル・先端技術を活用した公共交通サービス（新モビリティサービス）の導入等に取り組む市町村等を支援する。 | | 補助対象事業・補助基準等 | <p>(対象事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新モビリティサービスの導入に係る調査研究や実証実験など <p>(補助対象経費)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究に係る費用（地域課題の整理や先進事例の調査、勉強会の開催等）や、実証実験に係る費用（導入するシステム・アプリケーションの購入費用、開発費及び利用料、決済端末のレンタル・リース料、効果や課題の検討等）に要する経費等 | 留意事項 | 事例等 | 令和4年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会（AIオンデマンド交通） | |
| | 根拠法令等 | 新モビリティサービス導入推進事業補助金交付要綱 | | | | | 令和5年度実施市町村等 南房総・館山地域公共交通活性化協議会（キャッシュレス決済導入調査） ちばシティバス（千葉市と連携し、バス運行情報をオープンデータ化） | |
| 申請時期・手続き等 | 4 | 申請 交付決定 | 補助率・額 | 補助率：1/2以内 補助上限額：3,000千円 | 備考 | ※対象市町村等数は、54市町村及び1広域法定協議会（南房総・館山地域公共交通活性化協議会）。 | | |
| | 5 | | | | | | | |
| | 6 | | | | | | | |
| | 7 | | | | | | | |
| | 8 | 翌年度要望調査 | | | | | | |
| 9 | 実績報告 額の確定・請求 交付 | 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |

| | |
|-------|-------------|
| 助成事業名 | 地域女性活躍推進交付金 |
|-------|-------------|

| | | | | | | | | | |
|--------|-------|----|------|-------|----------|----|-------|----|--|
| 国補・県単別 | 国補 | 分類 | 2-24 | 県主管課 | 多様性社会推進課 | 室等 | 事業推進班 | 内線 | |
| 事業実施主体 | 県・市町村 | | | 関係省庁名 | 内閣府 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|--|--|------|--------------|--|
| 事業の目的・概要 | 地域経済の活性化を図るため、都道府県及び市町村が、地域の実情に応じて行う女性の活躍推進に資する取組を支援することにより、地域における関係団体の連携を促進し、地域における女性の活躍を迅速かつ重点的に推進することを目的とする。 | | 【補助対象事業】 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)第6条第1項の規定に基づく都道府県推進計画又は同条第2項の規定に基づく市町村推進計画の策定又は策定に先行して行う、推進計画に位置付けられ、又は位置づけられる見込みの事業であり、地域における関係団体・企業等が連携した上で行う、次に掲げる取組を実施するための事業。 なお、本事業については、1から3まで全ての取組を実施するか、4から7までのいずれかの取組を実施することが必要である。また、4から7までについては、推進計画を策定していない市町村も対象となる。 | 留意事項 | | |
| | 根拠法令等 | 地域女性活躍推進交付金交付要綱等 | | | 補助対象事業・補助基準等 | 令和2年度実績市町村等(1市) 松戸市 令和3年度実施市町村等(2市) 千葉市、松戸市 令和4年度実施市町村等(6市) 千葉市、市川市、船橋市、松戸市、佐倉市、君津市 令和5年度実施市町村等(8市町) 千葉市、市川市、船橋市、松戸市、佐倉市、市原市、君津市、横芝光町 |
| 申請時期・手続き等 | 【前年度】 | 3月 交付申請 (R6年度事業) | 1. 域内における女性の活躍の推進に関する施策についての実施計画の策定 2. 1の実施計画に基づく女性の活躍の推進に資する取組の実施 3. 1及び2の実施による効果の検証及び今後の課題の整理 4. 女性のデジタル人材育成や起業家育成を支援する取組の実施 5. 社会参画や就労等へつなげたり、社会との絆・つながりを回復できるよう、様々な課題・困難・不安を抱える女性への支援に関する取組の実施 6. 不安を抱える女性が社会との絆・つながりを回復することができるよう、特定非営利活動法人等の知見や能力を活用し、主たる事業を特定非営利活動法人等に委託する事業において、アウトリーチ型支援(訪問支援)や居場所の提供、当該女性を支援する人材の育成・養成などの取組の実施 7. 男性の望まない孤独・孤立の悩みなどに係る男性相談支援の取組の実施 | 事例等 | | 対象市町村等数 |
| | 【実施年度】 | 4月 交付決定 (R6年度事業) 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 状況報告 | | | 実施市町村等数(5年度) | 8 |
| 【翌年度】 | 4月 実績報告額の確定 | | | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | <p>【令和4年度予算】</p> <p>1 活躍推進型（上記取組1・2・3） 交付額は、都道府県事業は800万円(※1)と、市町村事業は政令指定都市(1市)につき500万円、それ以外の市町村は1市町村につき250万円を上限とし、事業費の2分の1を交付する。</p> <p>2 デジタル人材・起業家育成支援型（上記取組4） 交付額は、都道府県事業は1,200万円と、市町村事業は政令指定都市(1市)につき750万円、それ以外の市町村は1市町村につき375万円を上限とし、事業費の4分の3を交付する。(※2)</p> <p>3 寄り添い支援型プラス（上記取組5） 交付額は、都道府県事業、市事業(1市)ともに800万円と、町村事業(1町村)につき500万円を上限とし、事業費の2分の1を交付する。</p> <p>4 つながりサポート型（上記取組6） 交付額は、都道府県事業、市町村事業(1市)ともに1,125万円を上限とし、事業費の4分の3(※3)を交付する。</p> <p>5 男性相談支援型（上記取組7） 交付額は、都道府県事業、市事業(1市)ともに800万円と、町村事業(1町村)につき500万円を上限とし、事業費の2分の1を交付する。</p> | <p>補助率・額</p> <p>備考</p> <p>(※1)都道府県が以下の事業を実施する場合は、交付上限を1,000万円とする。 ①女性役員の育成に係る事業 ②推進計画未策定市町村を対象とした女性活躍推進に関連した事業又は推進計画策定支援事業</p> <p>(※2)ジェンダーの視点を踏まえ、市町村等の経済部局や商工会議所等との連携・協働していること、デジタル人材・起業家の育成だけではなく、就労・起業までつながることを目指していること、雇用に結び付く割合等に関し適切な重要業績評価指標(KPI)を設定の上、事業効果が高いと見込まれること等の要素が含まれる取組が対象。</p> <p>(※3)都道府県及び市町村が主たる事業を特定非営利法人等に委託する事業(外部委託)で、その知見を活用して実施する場合であって、当該委託事業にかかる経費(委託料)の総事業費に占める割合が3/4以上となる場合に限り、補助率を3/4とする。</p> |
|--|--|--|--|